

平成29年度
長岡市社会資本総合整備計画等
事業評価監視委員会

計 画 名 : 社会資本総合整備計画

「長岡市通学路の安全対策（防災・安全）」

交付金名 : 社会資本整備総合交付金

評価種別 : 事後評価

平成30年2月1日

新潟県長岡市

長岡市通学路の
安全対策の概要について

(1) 長岡市通学路交通安全プログラム

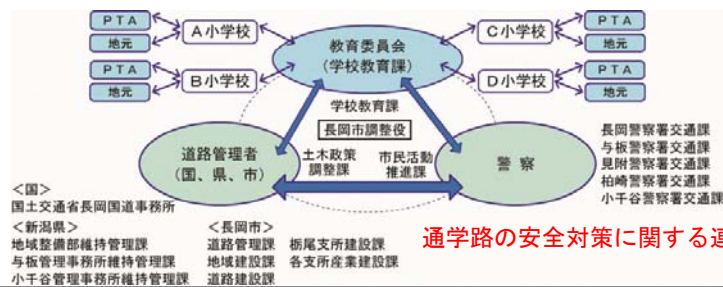
長岡市通学路交通安全プログラム

■背景

- 平成24年、全国で登下校中の児童が死傷する事故が相次いで発生
- 各小学校の通学路における危険箇所について、教育委員会、警察、道路管理者などが連携して緊急合同点検を行い必要な対策を実施
- これらの取組により一定の成果が得られたことから、平成25年度からは「通学路の安全対策実施のための事務システム」を構築
- これらの取組のさらなる推進のために本プログラムを策定

■目的

計画的かつ継続的に通学路の交通安全対策を実施し、児童が安心して通学できる歩行空間の確保を実現する。

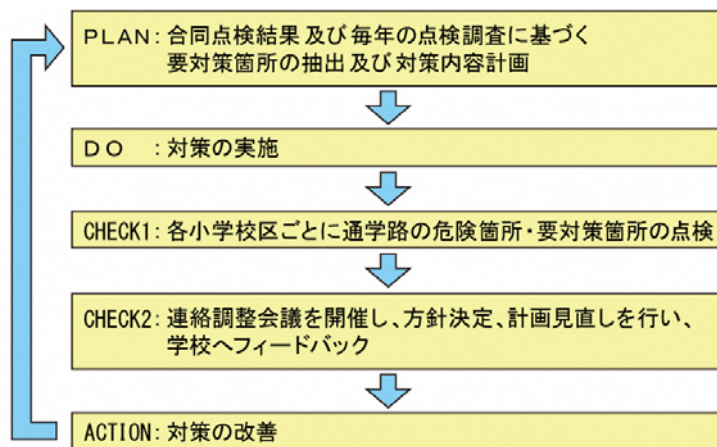


3

長岡市通学路交通安全プログラム

■取組方針

- 継続的な通学路の安全確保を推進するため、PDCAサイクルにより、繰り返し見直しながら安全対策を実施し、さらなる安全度の向上を図ります。



4

長岡市通学路交通安全プログラム

■主な取組内容

●踏切拡幅 	●歩道整備 	●路肩整備 	●歩道消雪パイプ整備 
●グリーンベルト整備 	●通学路防犯灯設置補助 	●信号機の設置 	●横断歩道の設置 
●規制の追加 (「止まれ」など) 	●児童への安全指導 	●学校、PTA、地元町内の合意形成 	

5

長岡市通学路交通安全プログラム

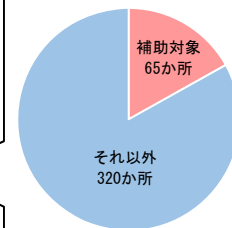
プログラムの要対策箇所

長岡市通学路安全プログラムの要対策箇所数 (H28末時点)

全体数量 984か所

教育委員会	警察	道路管理者			
54	398	国	新潟県	長岡市 (385か所)	
		6	141	補助対象 65	それ以外 320

長岡市道路管理者事業
箇所数内訳



6

社会資本総合整備計画

整備計画の概要及び実施状況

7

本整備計画の概要

- 社会資本総合整備計画の名称
長岡市通学路の安全対策（防災・安全）
- 社会資本総合整備計画の作成主体
長岡市
- 社会資本総合整備計画の目標
通学路の要対策箇所に対し、安全対策を行うことにより、安全・安心な通学路を確保する。
- 計画期間
平成25年度～平成29年度（5年間）



8

本整備計画の概要

■ 目標達成をはかるための評価指標

評価指標		従前値	目標値 (H29末)
指標1	危険個所の対策率	0.0%(H24)	54.0%
指標2	登下校時の交通事故件数	2件(H23)	0件

9

本整備計画の概要

指標1: 危険個所の対策完了率

・ 目標値設定の考え方

○ 国の「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」では通学路における歩道などの整備率の目標値を54.0%に設定していることをふまえ、目標値を54.0%とした。

・ 指標の算出方法

○ 対策完了率 = 対策完了箇所数 / 要対策箇所数 × 100%

目標 (54%) ⇒ 210か所 / 385か所 × 100%

※市道における通学路の要対策箇所数 = 385箇所

※対象箇所の抽出は、長岡市通学路交通安全プログラム（緊急合同点検箇所含む）の掲載箇所のうち、教育委員会を除く長岡市の部局が対策を実施する箇所

10

本整備計画の概要

指標2: 交通事故件数

・目標値設定の考え方

○通学路の整備により安全性を高めることで、交通事故件数を0件とすることを旨とする。
 ※平成19年度から平成23年度までの事故件数を根拠とした推計値に対する投資効果

・指標の確認方法

○長岡警察署発表の小学生登下校時における交通事故件数を調査する。

11

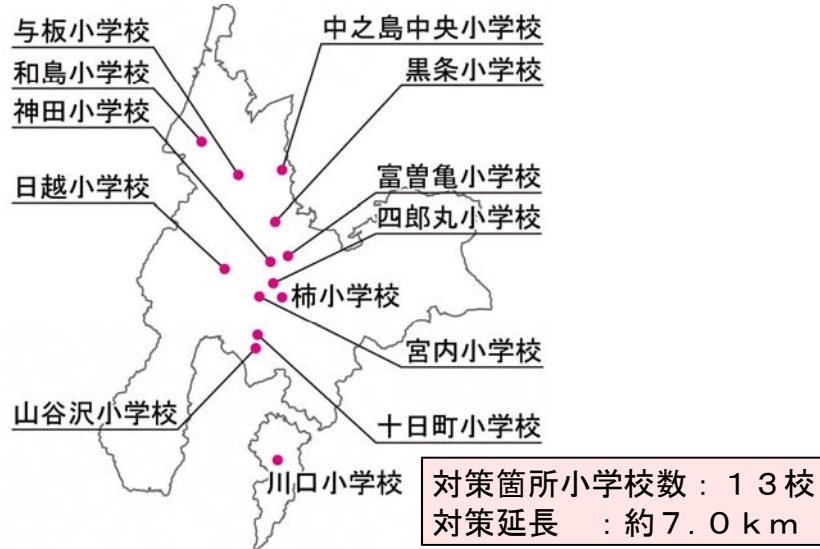
本整備計画の概要

■事業の内容及び対象小学校

事業種別	小学校名					合計	事業規模	要対策箇所
歩道整備	神田	四郎丸	富曾亀	黒条	柿	13校	7.0km	17箇所
	宮内	山谷沢	十日町	日越	中之島中央			
	和島	与板	川口					
路肩整備	富曾亀	黒条	前川	上組	深沢	8校	2.1km	10箇所
	日越	関原	福戸					
グリーンベルト整備	川崎	四郎丸	富曾亀	才津	日越	7校	3.7km	9箇所
	関原	宮本						
踏切拡幅整備	阪之上	十日町				2校	80m	2箇所
歩道消雪パイプ整備	中島	表町	神田	富曾亀	柿	7校	1.7km	8箇所
	宮内	上川西						
防犯灯設置	栖吉	下川西	宮本	中之島中央	脇野町	9校	137基	19箇所
	山古志	和島	寺泊	大河津				
合計						31校		65箇所

12

歩道整備について



13

整備箇所：市道富曾亀102号線【富曾亀小学校】

【対策前】



【対策後】



■ 対策前の状況

- ・ 歩道と車道の区分が無い
ため児童が車と接触する
恐れがあり危険である。

- ・ 2.5mの歩道新設
- ・ 通学児童の安全性が向上

■ 対策事業の内容

- ・ 歩道整備 (L=720m : W=2.5m)

■ 工期：H25～H26

14

路肩整備について



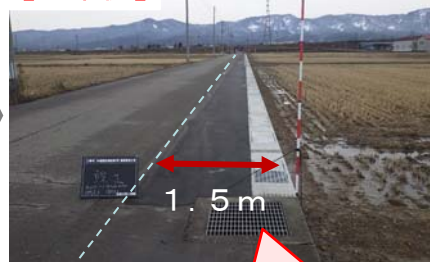
15

整備箇所：市道富曾亀10号線【富曾亀小学校】

【対策前】



【対策後】



■対策前の状況

- ・歩道が無く、路肩も狭いため、児童と車との接触や道路脇の田んぼへの転落の恐れがあり危険。

■対策事業の内容

- ・路肩拡幅整備
(L=260m : W=1.5m)

■工期：H28

- ・路肩を広げ、歩行者空間を確保
- ・通学児童の通行の安全性が向上

16

グリーンベルト整備について



17

整備箇所：市道富曾亀106号線【富曾亀小学校】



- 対策前の状況
 - ・ 歩道と車道の区分が無いため児童が車と接触する恐れがあり危険である。
- 対策事業の内容
 - ・ グリーンベルト整備 (L=172m : W=0.6m)
- 工期：H27

- ・ グリーンベルトを整備
- ・ 歩行者通行空間を視覚的に明示することで、運転手注意喚起
- ・ 歩行者の安全性が向上

18

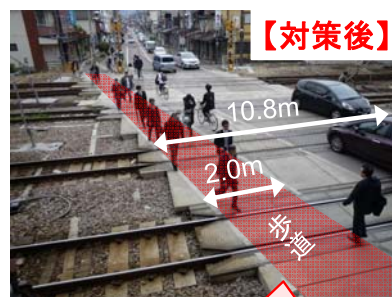
踏切拡幅整備について



対策箇所小学校数：2校

19

整備箇所：殿町踏切（市道東幹線30号線）【阪之上小学校】



■ 対策前の状況

- ・ 歩道と車道の区分がなく、歩行者が車と接触するおそれがあり危険である。

■ 対策事業の内容

- ・ 踏切改良（L=60m：W=10.8m）
- ・ 歩道幅員（W=2.0m）

- ・ 歩道と車道を明確に分離
- ・ 2.0mの歩行空間を確保
- ・ 通学利用者らの安全性向が向上

20

歩道消雪パイプ整備について



21

整備箇所：市道409号線(表町小学校)

【対策前】



【対策後】



■ 対策前の状況

- ・ 歩道に雪が残り、児童が通学しにくく、凍結などにより転倒等による事故の恐れがあり危険である。

■ 対策事業の内容

- ・ 散水管整備 (L=217m)
- ・ さく井 (1本)

■ 工期：H25

- ・ 歩道の民地側に消雪パイプを新設
- ・ 低学年児童も安心して登校
- ・ 転倒等の危険性が無くなり、安全性が向上

22

防犯灯設置について



23

整備箇所:市道寺泊219号線【寺泊吉地区】

【対策前】



【対策後】



■ 対策前の状況

- ・ 照明等がなく、夕方・夜間の児童の帰宅時に、車の運転手が確認しにくく、事故となる恐れがあり危険である。

■ 対策事業の内容

- ・ 防犯灯設置工事補助（13灯）

■ 工期：H27～H28

- ・ 防犯灯の新設
- ・ 夕方、夜間に児童等の視認性アップ
- ・ 歩行者の安全性が向上

24

評価結果の内容について

(1) 成果の達成度

25

成果の達成度

意見聴取事項

指標		従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込み	
		基準年度		目標年度		確定・見込みの別	評価年度			
指標1	対策完了率	0.0%	H24	54.0%	H29	83.1%	見込み	H29	○	あり ● なし
指標2	小学生の登下校時における交通事故件数	2件	H23	0件	H29	0件	見込み	H29	○	あり ● なし

※対策完了率はH28年度末時点、H29交通事故件数は、H29.4～H29.10時点

フォローアップ計画

指標	予定時期	計測方法
指標1	H30.8	事業完了後、確定値を求める
指標2	H30.8	H29.3までのデータにより確定値を求める

目標達成度の凡例：○ 評価値が目標値を上回った場合
 △ 目標達成はしていないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × 目標値に達成しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

26

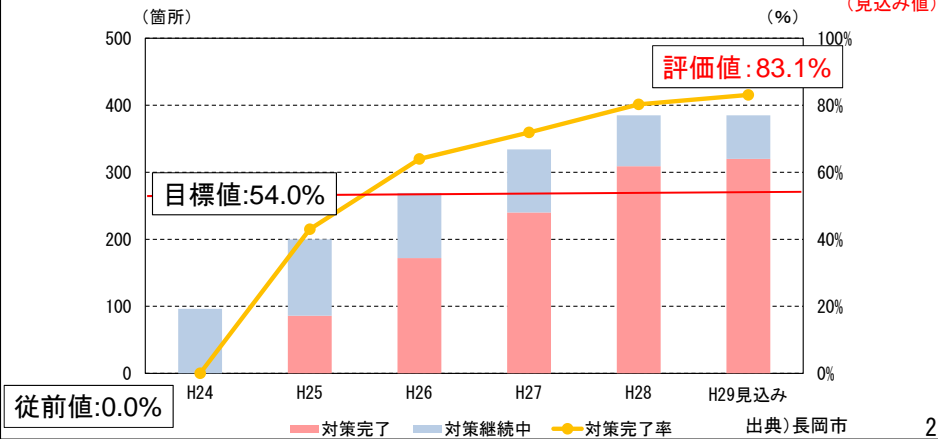
成果の達成度

・指標1 対策完了率

達成度○



(見込み値)

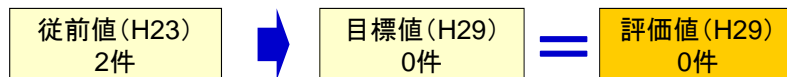


27

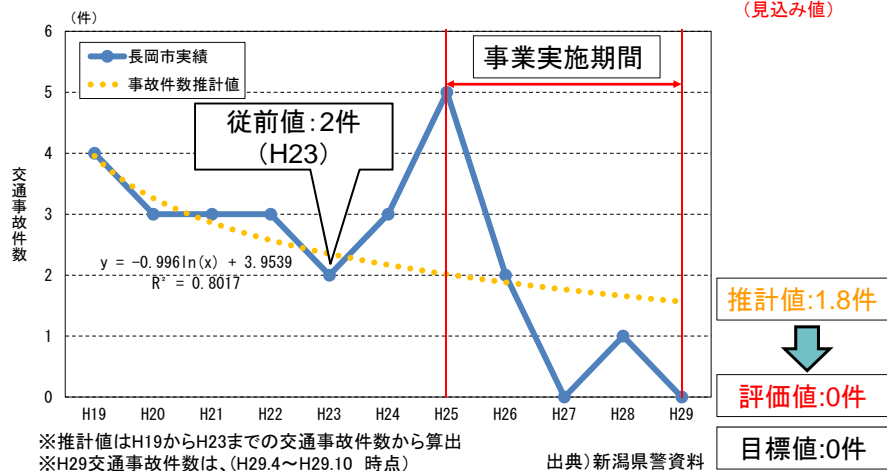
成果の達成度

・指標2 小学生登下校時における交通事故件数

達成度○



(見込み値)



28

事業の効果発現要因の整理

29

事業の効果発現要因の整理

意見聴取事項

事業	事業内容	指標1 対策完了率	指標2 小学生の登下校 時における 交通事故件数
基幹事業	踏切拡幅整備	◎	◎
	歩道整備	◎	◎
	歩道消雪パイプ整備	◎	◎
	グリーンベルト整備	◎	◎
	路肩整備	◎	◎
効果促進 事業	防犯灯設置補助	◎	◎

凡例：◎直接的に貢献 ○間接的に貢献 - 関連性なし (-)計画期間内は未実施

30

今後の通学路の安全対策について

31

今後の通学路の安全対策について

事業前の課題	効果、残された課題		効果持続方策 改善方策	想定される 事業
通学路に危険箇所があり、交通事故の懸念	達成されたこと その効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 (54%) を上回る83.1%の完了率を達成見込み ・ 交通事故件数の目標0件を達成見込み ・ 7割を超える小学校が安全性が高まったと回答 <p>⇒着実に推進している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路交通安全プログラムの適正な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○本整備計画で着手したが、未完了である事業 ・ 歩道整備 ・ 路肩整備 ・ グリーンベルト整備 ・ 踏切拡幅整備 ・ 歩道消雪パイプ整備 ○今後通学路交通安全プログラムで対策が必要と判断される事業 ○ハード整備箇所に対する重点的なソフト施策（通学児童の指導等）
	残された課題、新たな課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ整備が終わっていない危険箇所がある。 ・ 新たな危険箇所への対策が必要である。 ・ ハード整備箇所の効果をソフト施策によってより高め、リスクの最小化を目指す。 <p>⇒優先順位をつけながら、継続して対策実施</p>		

32

今後の通学路の安全対策について

【ソフト事業の実施状況】

○ハード事業だけではなくソフト事業も実施

登下校時の見守り活動（下塩小学校）



自転車交通安全教室（六日市小学校）

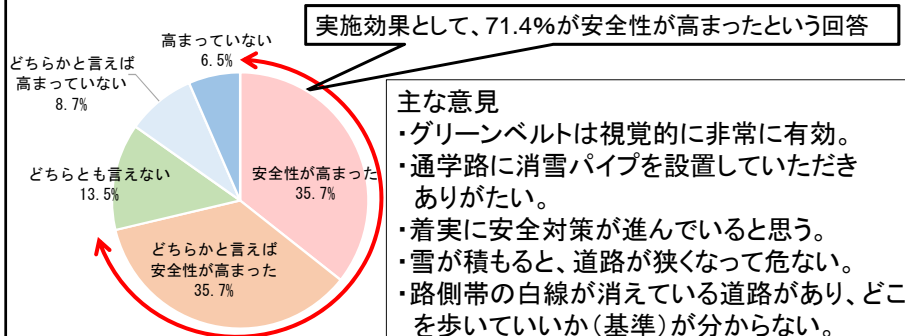


33

(参考)アンケート調査の概要

○長岡市で実施した事業に対する効果を確認するために市内の小学校を対象にアンケート調査を実施
回収率：93.0% (53校/57校)

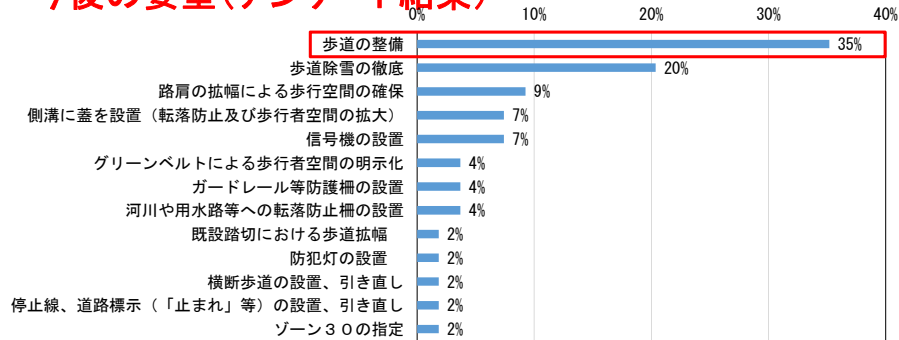
・事業の実施による効果



34

(参考)アンケート調査の概要

・今後の要望(アンケート結果)



主な意見

- ・通学路に歩道が欲しい。積雪時は路肩が雪で埋もれ、子どもは車道を歩かざるをえない状況
- ・車道・歩道ともに消雪パイプがなく、大雪になると歩行が困難
- ・児童の多くが通学で通る箇所にグリーンベルトを設置して欲しい。